

# 令和5年度事業報告書

## 1 令和5年度の概要

令和5年度は、新たに指定管理者の指定を受けた円山公園を含め、4公園で新たな指定管理期間の事業を始めた。

事業面においては、公益目的事業で、地球温暖化対策、生物多様性の確保、防災、良好な生活環境や地域交流等の面で重要となっている都市の緑を保全・創出するため、京都市緑の基本計画等に基づく活動を引き続き推進した。

公1事業では、都市緑化に関する各種事業、公園を生かした緑のイベントの開催等を行った。円山公園では、国指定の名勝にふさわしい東山エリアの歴史・文化・自然に関連づけた取り組みを行った。

公2事業では、日本庭園の良好な保全管理とともに、京都の庭園文化の情報発信等を行った。

公園収益事業では、利用料金収入、自主事業及び販売手数料等収益は3年度、4年度の回復基調を継続させることができた。

法人業務では、評議員会を1回、理事会を2回、オンライン併用で行った。新たなインボイス制度及び電子帳簿保存法に対応する規程等については、スムーズな導入を図った。

経営収支面においては、光熱水費や人件費、委託費等物価の急激な上昇の影響や修繕費の増加があり、最終的に4年度決算は10年ぶりに赤字決算（約8,700千円）となる苦しいスタートとなった。

しかし、経常収益は業務拡大を受け426,582千円と初めて4億円を越し、前年度（令和4年度）比68,036千円増と、前年度に引き続き堅調に改善した。このうち事業収益は424,073千円、前年度比68,710千円増であった。その増減の内訳をみると、受託事業収益60,449千円増、利用料金収益6,877千円増、販売手数料等収益1,351千円増であり、コロナ禍以降、柱となる収益は改善した。

経常費用は428,302千円、前年度比61,038千円増だった。このうち事業費は425,340千円、同61,938千円増であり、この増加の内訳をみると、人件費（10,746千円増）、消耗什器備品費・消耗品費（計3,026千円増）、委託費（43,879千円増）が新規の円山公園の業務関係によるものだった。

この結果、当期一般正味財産増減額は1,720千円の赤字（前年度8,718千円の赤字）であり、2年連続の赤字となったが、前年度に比べ赤字幅は大きく改善した。

## 2 令和5年度の事業実施状況

### I 公益目的事業

決算額 272,937千円（予算額 263,907千円）

#### I-1(公1)都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりに寄与する事業

決算額 244,325千円（予算額 240,192千円）

都市緑化の普及啓発、緑化意識の向上及び緑豊かなまちづくりを目的として、管理運営する公園等を拠点として、各地域において講習会、イベント、広報その他様々な事業を行った。

京都市建設局所管の都市公園等4施設の指定管理者の公募に応じ、審査の結果、3公園（梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園、円山公園）の指定管理者に指定された。

## (1) 園芸・造園に関する人材育成

### ア 園芸講習会(前期・後期)

市民を対象として、園芸、造園など緑化に関連する技術・知識の普及を図った。

前年度に引き続き、(公財)京都 SKY センターと共催し、同センター会員の参加も得て、1日2回開催。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 260人/後期 342人 ・参加者数計 342人

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	5月25日	初夏～秋の草花の育て方と寄植え
	第2回	6月22日	ハンギングバスケット
	第3回	7月20日	草花の繁殖方法と夏越し、コケ玉づくり
	第4回	8月10日	多肉植物の育て方と寄植え
	第5回	9月7日	夏から秋に咲く草花の育て方と寄植え
後期	第1回	10月26日	秋咲き草花の育て方と寄植え
	第2回	11月16日	秋植え球根の育て方と寄植え
	第3回	12月14日	クリスマス飾りを作る
	第4回	2月15日	冬咲き草花の育て方と寄植え
	第5回	3月14日	春咲き草花の育て方と寄植え

### イ プランター菜園教室(前期・後期)

玄関周りやベランダ等で楽しむ家庭菜園づくりの方法を学ぶ講習会。前期、後期ともに1日2回開催した。

- ・講師 花と緑の普及員 駒井修
- ・受講者 前期 151人/後期 122人 ・参加者数計 273人

	回	開催日	実施内容
前期	第1回	4月27日	トウモロコシ、ピーマン、オクラ等の育て方、播種、植付け
	第2回	5月18日	クリーピングタイム、ロケット、スイートバジル等の育て方、播種、植付け
	第3回	6月8日	エンツァイ、サツマイモ、パセリ、コマツナ等の育て方、播種、植付け
後期	第1回	8月31日	小カブ、九条ネギ、ニンニク等の育て方、播種、植付け
	第2回	9月28日	アサツキ、サニーレタス、セロリ等の育て方、播種、植付け
	第3回	11月2日	イチゴ、絹莢エンドウ、タマネギ等の育て方、播種、植付け

### ウ 園芸セルフケア教室

園芸療法士の指導により、公園花壇等の植物の手入れを通して自身の健康チェックと生活リズムを整える教室。

- ・講師 花と緑の普及員 寺田裕美子 ・開催日 毎週木曜日
- ・受講者 30人 ・参加者数のべ800人 (49回)

## エ 地域での出張園芸講習会等

地域団体や学校等での出張講習の開催協力及び講師を派遣した。(下表は実施例)

テーマ/団体 (場所)	開催日	人数	備考
希少植物9種の育成/(株)SCREENホールディングス	4月11日	4人	まちなみ緑化等支援(3/21にも実施)
ヒオウギとフタバアオイの育成/清水長金属工業(株)	7月22日	5人	生きもの文化協働再生プロジェクト認定制度(10/25、3/23にも実施)
園芸基礎知識、夏～秋草花寄せ植え/(公財)京都SKYセンター	7月25日	48人	「実践講座 農園芸活動体験」の1講座
コケ玉作り講習会/淳風地域女性会	9月13日	19人	緑のまちづくり支援業務
伝統野菜ミブナの学習と植付け/朱雀第三小学校	10月17日	48人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
フジバカマの学習と植付け/朱雀第八小学校	10月18日	75人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
伝統野菜ミブナ植付け/朱雀第七小学校	10月24日	39人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
ヒオウギとフタバアオイの育成/清水長金属工業(株)	10月25日	5人	生きもの文化協働再生プロジェクト認定制度
フジバカマの学習と植付け/朱雀第四小学校	11月7日	56人	中京区地域愛とみどりを育てる環境学習
オケラ収穫と植付け、生薬に加工/開晴小中学校	12月7日	26人	まちなみ緑化等支援
キクタニギクの冬越し作業/京都文教小学校	12月13日	28人	まちなみ緑化等支援
コケ玉作り講習会/皆山地域女性会	12月16日	20人	緑のまちづくり支援業務
コケ玉作り講習会/植柳地域女性会	12月23日	24人	緑のまちづくり支援業務

## (2) 自然環境に関する講習会・体験活動

### ア 体験型講習会、自然観察会等

自然観察会、プレイパークでの子ども及び家族向け自然あそび教室等を開き、自然環境に根差した地域の歴史や生活文化を学ぶプログラムも行った。事前申込制などコロナ対策を徹底して開催した。

#### a 梅小路公園自然観察会の実施

様々な生き物に親しみ、自然の仕組みを理解いただくことを目的として、ビオトープ「いのちの森」をはじめとする公園内での自然観察会を実施した。講師は京都ビオトープ研究会いのちの森モニタリンググループ。

##### ① 月例等定期の観察会

・各回の実施内容(計12回・参加者計146人)

開催日	テーマ	開催日	テーマ
4月15日	植物の観察 1	10月21日	植物の観察 5
5月20日	植物の観察 2	11月18日	植物の観察 6
6月17日	きのこの観察	12月16日	植物の観察 7
7月15日	植物の観察 3	1月20日	野鳥の観察
8月19日	植物の観察 4	2月17日	苔の観察
9月16日	きのこの観察	3月16日	植物の観察 8

##### ② 子ども緑の学校～梅小路公園子ども自然観察会

植物の生長を見守りながら、稲の田植、収穫、脱穀の体験、きのこ観察、ヒオウギ観察などを行う全7回シリーズ。小学生を対象とした。

・受講者 21人 ・参加者数のべ95人

#### b 宝が池公園自然あそび教室

##### ① 子どもの楽園周辺の自然を生かした教室等

子どもの楽園とその周辺の自然環境を生かし、遊びながら学べる教室を実施。自然観察、クラフト、自然の仕組みや生活文化等を学ぶ多彩なプログラム。

- ・開催日 原則第2・第4土曜日
- ・実施回数 計37回 ・のべ参加人数 661人
- ・プログラムの例 ツツジに染まる宝が池ハイキング、春の野鳥観察、森のしくみとキノコの不思議、そだててみようヤママユ、石包丁をつくろう、川であそぼう・生き物をさがそう、ナイトウォッチング、草花の観察&藍染体験、外来生物といきものつながり、落ち葉あそび・らくがき、親子で古代ものづくり(勾玉、どんぐりクッキー)、炭焼きアート、冬を迎える森と生きものの姿、等

#### イ 宝が池連続学習会

「森をしらべる・森をそだてる・森をつたえる」ための連続学習会。自然資源の低利用、シカ食害等の森の問題を座学とフィールドワークで考える。4年度は特に「森を楽しく利用しながら再生する」をテーマに、新たなゲストも迎え実施。

- ・共催・京都府立大学森林科学科、「宝が池の森」保全再生協議会
- ・場所 上高野防災会館、宝が池公園等
- ・参加者数 のべ 105人

回	開催日	内容／講師 (敬称略)
第1回	6月25日	ガイドンス:宝が池の森の姿/魅力・課題そして多様な活動／田中和博(京都先端科学大学)、森のようちえん「どろんこ園」、京都宝の森をつくる会
第2回	7月23日	森と水辺をつなぐいきものたち～宝が池・湿地調査／竹門康弘(京都大学)、森川裕之(NPO法人NATURE WPRKS)
第3回	9月24日	宝が池の森と野生生物(シカ、野鳥等)／高柳敦(京都大学)、梶田学氏(日本野鳥の会京都支部)
第4回	10月29日	自然共生サイトってなんだろう?／森本幸裕(京都大学 名誉教授)、京都市環境管理課
第5回	12月17日	自然観からさぐる身近な森との暮らしかた」／菅井啓之(元光華女子大学教授)
第6回	1月21日	楽しみながら森の再生実践! (森林の手入れ作業)

#### (3) 花とみどりの相談所(緑の相談所)運営

##### ア 相談業務

植物、園芸等に関する技術的な無料相談を梅小路公園で行っている。件数(内容別)は前年より17.7%減少し、面談による相談の割合も前年度相談35.8%から減少した。

- ・相談日 毎週2日(水曜日、土曜日)及び出張相談
- ・時間 午前10時～午後4時まで(面談又は電話による。)
- ・相談員 植村久美子、西原美貴子
- ・相談日数 105日 相談件数(内容別)553件(面談の相談23.4%)

## イ 京都ゆかりの希少植物の保全・普及

各地の団体・個人と連携し、京都の歴史文化に密接に関係している希少な山野草等の保全・繁殖に取り組み、京都市生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度の認定団体など、希少植物保全を行う団体に対して出張相談、その他の協力を行った。

### a 希少植物保全団体への協力

京都市生きもの文化協働再生プロジェクト認定団体等の相談 25 件（うち出張 13 件）を受けた。

### b 施設・環境イベント等での普及啓発活動

京都駅ビル「緑水歩廊」（11 月 23 日～30 日）、京都御苑閑院宮邸前（11 月 23 日～12 月 3 日）でキクタニギクを展示。（京都駅ビル開発（株）、（一財）国民公園協会京都御苑、KES エコロジカルネットワーク協力）

### c 八坂神社のをけら再生プログラムへの協力

大晦日の八坂神社をけら詣りで用いる希少植物オケラが入手困難になっている。当協会が本殿内に 1 株だけ残っている株の保全繁殖に協力しており、NPO 国境なき環境協働ネットワークが呼びかけ、開晴小中学校の児童生徒が育てる株から根茎（生薬ビャクジュツ）が前年度に続いて収穫でき、12 月 22 日に八坂神社に寄贈、祭事で使ってもらうことができた。（技術協力・武田薬品工業（株）京都薬用植物園）

### d 京都伝統文化の森推進協議会による東山・菊溪の森づくりへの協力

「京都伝統文化の森推進協議会」（事務局・京都市）が林相改善の一環として高台寺山国有林内の菊溪川支流でキクタニギク植栽を行う「キクタニギクの咲く菊溪の森づくり」を 3 月 16 日に行った。当協会は苗約 150 株を KES 生物多様性プログラム（下記ウ）参加企業・団体の提供により確保するなどの協力を行った。

## ウ KES 生物多様性プログラムへの参画

KES（京都環境マネジメントシステム・スタンダード）の認証登録を行う特定非営利法人 KES 環境機構が実施する生物多様性プログラム「KES エコロジカルネットワーク」の企画・実施に参画している。5 年度は計 251 の事業所が参加した。コロナ禍後初めての希少植物栽培講習会（5 月 19 日、6 月 23 日、みやこメッセ、講師・藤井肇氏）の開催、希少植物 8 種の確保に協力した。

- ・ネットワーク構成団体 京のアジェンダ 21 フォーラム（（公財）京都市環境保全活動推進協会）、京都市、京都駅ビル開発（株）、KES 環境機構及び本協会

## エ 公益社団法人日本植物園協会の活動

（公社）日本植物園協会に加盟し、希少植物保全等の活動に関し、在京滋植物園情報交換会等を通じた情報交換、相互協力を行っている。5 年度の第二分野（指定管理者を含む国公立園）運営会議は、気候変動への対応がテーマであり、特に令和 5 年の夏季の異常高温に伴う入園者数の伸び悩み、栽培・繁殖の失敗、光熱水費等の管理費の増大、職員の安全などの深刻な課題が多く、園から指摘された。

- ・参加実績 第 58 回大会（5 月 29～31 日、高知県立牧野植物園）、在京滋植物園情報交換会（2 月 21 日、京都府立植物園）、第二分野運営会議（3 月 5 日～6 日、宇治市植物公園、テーマ・気候変動への対応）

#### (4) 緑のイベントの開催及び支援

緑に関連する団体の協力、(公社)京都市観光協会、京都市交通局、JR西日本、京都新聞、KBS京都の後援などの連携を得ながら、植物、緑の文化、公園緑地の多面的な大切さを訴えた。

##### ア みどりの月間、都市緑化月間等のイベントの開催、協力

###### a 梅小路公園グリーンフェア 2023 春／秋

みどりや広々とした空間など公園のもつ心地よさ、安らぎ、にぎわいを多くの人に感じていただくため、春と秋の2回実施。秋は初めて9月30日を初日とした。

開催日		天候	来場者数
春	5月3日、4日	晴	58,800人
秋	9月30日、10月1日	晴	23,900人
			計 82,700人

###### b 春の和の花展、藤袴と和の花展

- ・「春の和の花展」(4月22日～5月7日) 1,216人
- ・「藤袴と和の花展」(9月23日～10月9日) 1,525人

###### c 梅まつり in 梅小路

梅の開花期(2月17日～3月3日)に梅林散策ルートマップを掲示して、自由に散策できるようにした。

###### d 第36回京都まちとみどり写真コンクール

京都府都市計画協会主催、京都府・(公財)京都府公園公社共催。毎年10月の都市緑化月間に行われるコンクールで、コロナ禍後4年ぶりの開催となった。当協会は後援を行った。

##### イ 「きょうと☆いのちかがやく博物館」連携事業 への参加

次世代向けに生きもの保全に関する普及啓発などを行う「きょうと☆いのちかがやく博物館」(京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センターの4園館)の包括交流連携協定(平成28年締結)に、令和5年6月より、梅小路公園「いのちの森」(京都市みどり政策推進室所管)及び「きょうと生物多様性センター」(府・市共同設置)が実質的に参画することとなり、当協会は公園指定管理者、いのちの森モニタリング活動の協力団体として、同協定関連行事への出展(いのちの森紹介パネル展示、クイズ実施等)を行った。

【参加イベント例】生物多様性センター開所記念イベント(7月21日、京都学・歴彩館)、きょうと☆いきものフェス!2023(10月8・9日、府立植物園)、きょうと☆いのちかがやく博物館ワークショップ(10月17～24日、京都高島屋)、科博連サイエンスフェスティバル(2月4日、京都市青少年科学センター)

#### (5) 市街地緑化事業

##### ア まちなみ緑化等支援事業

まちなみ修景のため、和の花や和のイメージの容器を、施設、住宅、事業所等の敷地に設置し管理していただく活動や環境対策として、花と緑による修景や地域の交流を図る活動への支援等を行った。(一部は(1)エに重複掲載)

##### イ 御池通スポンサー花壇巡回管理業務

京都市のシンボルロードである御池通を企業等のスポンサーの寄付により、四季の花

で彩る京都市御池通スポンサー花壇事業（花壇基数 102 基）について、沿道の事業者や市民ボランティアが行う花壇の巡回管理の補助、ニュース発行等の普及啓発を行う業務を受託した。

- ・全面植替え 3 回、巡回管理補助のべ 56 回
- ・ニュース（スポンサー花壇だより）発行 8 回、アンケート調査 1 回

#### (6) 緑のボランティア団体の活動支援(京都市緑のボランティアセンター)

各地の緑のボランティア団体の活動を支援するための緑のボランティアセンター窓口運営を含む京都市緑のまちづくり支援業務を引続き受託した。有志団体、京都市の公園愛護協力会等に、ニュースレターや『京のみどり』等を通じた情報提供、京都市設置の和の花モデル花壇、雨庭の管理を行う団体への支援等を行った。初めて開催した交流イベントは、実績が豊富な 7 団体が参加し、近年の都市緑化の傾向についての講演（駒井修普及員）、今後のボランティア活動の拡大や交流についての意見交換を行った。

- ・実績 相談 23 件、ニュースレター発行 4 回、出張相談・講習 15 件、巡回・維持管理補助 33 回、共同作業 8 回、交流イベント 1 回（3 月 16 日、梅小路公園緑の館）

#### (7) 公園緑地の利用促進及び多目的な機能の向上に寄与する事業

安全安心に利用いただけるよう施設維持に努めるとともに、公園周囲を含めた多様な関係団体との連携・協力により、公園の多目的な機能の向上に努めた。

##### ア 梅小路公園指定管理業務及び関連業務

これまで別契約であった遊戯用電車（チンチン電車）運行業務が指定管理業務に含まれたが、4 年度（4 月 1 日～5 月 22 日、2 月 19 日～3 月 31 日）に引き続き、運行システムの不具合により、5 年 4 月～6 月の 3 か月間に運行を休止した。

##### イ 梅小路公園及び周辺エリアの活性化等に関する事業

公園内の施設管理者でつくる「梅小路公園・施設管理者連絡会」、エリアマネジメント団体である「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都・梅小路まちづくり推進協議会）」、「京都・七条通賑わいづくり協議会」、「(株) 梅小路まちづくりラボ」、及びこれらの団体の活動団体への支援を行う「京都駅西部エリアまちづくり協議会」（代表・森本幸裕・当協会理事長。商店街、自治連合会、企業、寺院、行政等で構成。）のメンバーとして、公園及び周辺地域のにぎわい創出の取組に参画した。

###### a 各施設管理者との連絡調整

各公園施設の管理者が情報交換し、相互の事業の調整や協力、安全確保等のために協議する「梅小路公園・施設管理者連絡会」の事務局を当協会が担い、日常業務の連絡調整等を行っている。（第 27 回連絡会 11 月 21 日実施）

###### b 「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト」環境整備業務の受託

京都駅から公園に至るルート of 環境整備を目的とする巡回、モニュメント等の清掃、案内、フラワースポット（花壇）の維持管理等を行った。

###### c 「官民連携まちなか再生推進事業」への参画

国土交通省補助事業「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受けた、(株) 梅小路まちづくりラボを代表とする「梅小路公園クリエイティブタウン・エリアプラットフォーム委員会」(UCAP) によるビジョンづくりに参加した。

#### d 「資源がくるり」プロジェクトへの参画

京都出身のバンド・くるりを中心として公園で行われる「京都音楽博覧会」の飲食ブースで生じる食品残渣を堆肥化し、公園に還元するプロジェクトに協力し、コンポストステーションで2回目の堆肥が完成し、2月15日に公園ボランティア2団体に引き渡された。また、芝生広場周囲の樹木付近の「土中環境」を改善するワークショップも堆肥を利用して行われた。

#### e 各種イベント開催への協力

公園でのイベントは、地域団体等が主催する公益性の高いイベントについては共催、開催協力も行っている。開催された主なイベントの例は次のとおり。

開催日	イベント名
第1土曜日	梅小路手づくり市（5月、1月を除く。協会共催事業。）
4月1、2日	さくらよさこい（ダンス発表会）
4月29日	第94回京都中央メーデー
5月7日	ビートライブ春の発表会（ダンス発表会）
5月21日、10月29日、3月17日	ものづくりPark マルシェ
5月27日、11月12日	循環フェス
5月28日	下京区民グラウンドゴルフ大会
7月28～30日	梅小路サマーフェスティバル
8月19日	地藏盆イベント
9月9日	下京ふれあいコンサート
9月10日	リベレーションフェスタ（人権擁護啓発の交流イベント）
9月16日	京伴祭（アニメ音楽フェス）
10月8、9日	京都音楽博覧会 I N梅小路公園（京都出身バンド「くるり」を中心とした野外コンサート。協会特別協力）
10月14、15日	日・タイ・カルチャーフェア
10月22日	建ちゃん祭り（建設ものづくり体験ブース出展）
10月28日	下京区・南区の児童館と学童保育所まつり
11月18日	JA京ベジフェスタ
11月26日	消防団フェスタ
12月8～10日	クリスマスマーケット
3月3日	京都ウォーク
3月23、24日	環境活動啓発イベント Do You Kyoto（音楽・ダンス発表）

#### ウ 宝が池公園子どもの楽園指定管理業務

コロナ禍後の回復の基調が続くことに対応し、安全で清潔な空間の維持に努め、平日のイベント開催、開園時間の30分間延長（7月22日～8月27日）など利用者のニーズ対応に努めた。夏休み期間中は異常な高温傾向により、午後の来園が伸び悩んだ。

#### エ 円山公園指定管理業務

初めて指定管理者制度が導入された円山公園は、名勝円山公園保存管理計画に示された本質的価値を継承する管理運営を行う必要があることから、京都の造園業界との協力による植物等管理保全や、公園周囲の魅力の発信など体制づくりを行った。公園区域内に便益施設が多くあり、車両通行できる道路もあることから、公園関係車両以

外の侵入禁止エリアを明確にすることや、危険木、繁茂した低木類の剪定を行うなど、安全の確保に努めた。

**a 京都市名勝円山公園利活用検討会の開催**

地域団体、商店街、公園内便益施設、隣接社寺の方々（以上、委員）、京都市（オブザーバー）及び指定管理者の参加により公園利活用について検討する「京都市名勝円山公園利活用検討会」（今西知夫会長）を10月26日開催。催事や公園管理等について意見を伺った。（出席委員7名）

**b 京都府造園協同組合との協力による保全管理等**

高い技術力を有する京都の造園業界の協力を得て公園の景観を保全管理していくため、京都府造園協同組合と協力関係を結び、維持管理にあたった。公園内に多数あるサクラの樹勢回復が大きな課題であることから、5年度の共同事業として、土壌改良に関する技術講習会を2月15日に開催し、29人が参加した。

**c 3者協定(京阪園芸(株)、(学)京都文教学園)**

公園の利活用などの取組を地域連携、次世代の参加を得て進めるため、緑化関連イベントの実績が豊富な京阪園芸(株)、幼稚園から大学院までを運営し公園近くに本部がある(学)京都文教学園との連携協定を9月7日に結び、次項dのイベントに生かした。なお、公園外において、キクタニギクに関する授業(京都文教小学校)、第1回ネイチャー甲子園((公財)国際花と緑の博覧会記念協会主催の全国高校生「地域の自然」甲子園)への京都文教高校生の動画部門への応募等に協力した。

**d イベントの実施**

**① 名勝円山公園「青空法話」**

円山公園に関係の深い寺院の方々に、今の社会に生きる私たちの心のあり方等についてお話いただいた。聴衆からも生活上の悩みなどについて質問を受け付け、お答えいただいた。今回は総本山知恩院布教師会に所属する関西一円の僧侶の皆さんのご協力で実施。

- ・開催日 10月7日～29日の毎週土日曜日の計7回（雨天のため1回中止）
- ・参加者 計104人
- ・開催場所 時計塔前（ひょうたん池付近）

**② 円山公園・東山ウォーク**

公園内や周辺の名所旧跡、京都一周トレイル（東山コース）などを歩き、体を動かしながら東山の歴史文化に親しんでいただくウォーキングイベント。

- ・実施日 10月29日
- ・参加者 20人
- ・コース 円山音楽堂（京都文教大学指導による準備体操）～公園園池（再整備箇所）・モニュメント・滝口～将軍塚道（トレイル東山コース）～将軍塚青龍殿、東山山頂公園～高台寺国有林～円山公園

**③ 和の花の展示**

**フジバカマ展示** 9月23日～10月17日 円山公園管理事務所前

**京都ゆかりの菊展示・お花見会** 11月3日～19日 円山公園管理事務所前

将軍塚から円山公園に向かって流れる菊溪（菊谷川）にかつて自生していた野菊キクタニギクと、京都の栽培技術で継承されてきた嵯峨菊、懸崖菊を展示。最終2日間（18、19日）は無料のお茶席を設け、高校生、大学生による外国人接待も行った（計200人接客）。

**④ 竹あかりイベントの体制づくり**

令和6年度の冬季の夜間に、竹筒に明かりを灯す「竹あかり」（竹灯籠）を並べ、夜の賑わいを生むイベントを計画しており、竹あかり制作を担う大学生（京都府立

大)、高校生(京都文教高校)などとの検討や、放置竹林問題の学習などを進めた。

- ・竹と放置竹林についての学習会(竹あかり制作関係者9人) 2月13日  
講師 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所 小林慧人研究員  
テーマ 竹とはどのような植物か、全国・京都の放置竹林の問題と解決策

## オ 多世代向け事業(プレイパーク、青空健康づくりプログラム等)

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園で、子どもの「遊び、学び、体験」の場を提供するプレイパーク事業を行った。平日にも乳幼児と保護者、平日放課後の小学生を対象としたプログラムや多世代が交流できるプログラムを行った。また、だれもが気軽にできる運動としてウォーキング教室等の健康づくりプログラムを実施した。

### a 梅小路公園プレイパーク

NPO 法人京都市育てネットワークとの提携により、昔遊び、集団遊びに加えて、竹細工を用いた遊びなどを取り入れ、四季や自然を感じながら想像力豊かに遊べる遊び場として、月2回開催した。

- ・活動日 原則第2土曜日(時間短縮開催)、第4日曜日
- ・実施回数19回 ・参加者数のべ1,707人

### b 宝が池公園子どもの楽園プレイパーク

自由な遊びを中心とする通常プレイパーク活動と特別イベントを、臨時閉園や定員制限の期間を除いて実施。このほか、遠足等の団体に対するプログラムを事前予約で実施した。

#### ① 通常プレイパーク・森カフェ

プレイパークゾーンで日曜日に集団あそび、昔あそびなどを楽しんでもらうほか、第2火曜日に森カフェを同時開催。森カフェは自然に囲まれた環境でおしゃべりやランチを楽しみながら子育てにかかわる悩みの相談や情報を交換できる場(共催・森のようちえんどろんこ園)。

- ・活動日 日曜日及び第2火曜日(森カフェ同時開催)
- ・実施回数36回 ・参加者数 のべ4,365人(うち森カフェ300人)

#### ② けむんばクラブ(宝が池ミニプレイパーク)

平日に4歳児までの乳幼児と保護者(親子)を対象に、森の散歩やものづくり等を通じて、親子や参加者間のつながりを深めるプログラムとして実施。

- ・開催日 8月を除く毎月第2金曜日(午前・午後2クラス)
- ・実施回数 計26回 参加者数 のべ304人(1日体験、団体プログラム含む。)

#### ③ けむんば「森林向上委員会」

児童と保護者(親子等)を対象に、プレイパークゾーン等の森の整備や散歩等を通じて、参加者間のつながりを深めるプログラム。

- ・開催日 5月21日、9月18日、12月10日、3月10日
- ・参加者数のべ113人

#### ④ 特別イベント

- ・昭和デー(昭和の遊びや文化を楽しめるイベント) 5月5日 約1600人
- ・左京子どもふれあいカーニバル in 子どもの楽園(左京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会主催・当協会共催) 10月28日 約800人
- ・どんぐりまつり2023 11月5日 約1700人
- ・ふらっとウォッチング~美しく染まる宝が池ハイキング 12月8日 12人

### ｃ 青空健康づくりプログラム

#### ① ウォーキング教室

だれもが気軽にできる健康増進プログラムとして、健康運動指導士・ヘルスケアトレーナーを講師として、梅小路公園の芝生広場でウォーキング教室を開催。運動不足などを原因とするロコモティブシンドローム（運動器症候群、通称ロコモ）予防のメニューを多く採り入れた。

- ・内容 ストレッチ、正しい歩き方指導、筋トレ、脳トレ、バランス運動、簡易体力測定、アンケート等
- ・季節ごとのテーマ

春～夏クール（4～7月）	心もカラダもスッキリと。いろんな運動を楽しもう！
夏～秋クール（8月～11月）	継続は力なり。無理のない範囲でからだを動かそう！
冬クール（12月～3月）	背スジを伸ばして寒さに負けない体力づくりをしよう！

- ・開催日 第2・4火曜日 23回のべ1,002人参加

### カ 公園ボランティアの運営、連携、支援

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園にかかわるボランティア活動により親しまれる公園づくりを進めた。梅小路公園では、花壇管理、ビオトープ運営、市電車両（総合案内所等）の保全を中心とし、宝が池公園子どもの楽園では、子どもの自然体験のサポートを中心として協力関係づくりと支援を行った。

#### a ボランティア組織「梅小路公園・花と緑のサポーターの会」の運営

週2回の定例作業日に園内の花壇等の植栽の手入れを行うほか、講習会の運営補助、公園内外の普及啓発イベントや緑化活動への協力等を行っている。

- ・活動回数96回、参加人数のべ1,276人

#### b 梅小路公園「園芸セルフケア教室」

園芸セルフケア教室（(1)ウ）の参加者による園内花壇の整備活動。

#### ｃ 市電車両の保全管理及びチンチン電車普及啓発のボランティア活動

市電車両（チンチン電車、市電ひろば車両及び総合案内所として活用する車両）の清掃、点検、簡単な整備、保全管理のアドバイス、イベント時に運行していた市電の写真、模型やパーツの展示等の普及啓発にご協力いただいている。（市電ひろば協会、日本路面電車同好会関西支部、京電会）

### キ 社会体験活動、インターンの受入れ

梅小路公園で市立白河総合支援学校生徒のべ40人の社会体験活動を受け入れ、ボランティアとの協働作業など、5～7月の計8日間、管理活動を行っていただいた。

子どもの楽園で京都産業大学生命科学部の学生2名（5～7月）、円山公園で京都大学大学院地球環境学舎の留学生1名（5～6月）のインターンを受入れ、管理運営にも生かした。

### ク 岡崎公園芝生広場維持管理業務

公園利用の中心である芝生広場の良好な維持管理業務を引続き京都市から受託した。

### ケ 平安神宮神苑「平安の苑」維持管理

平安時代の歌に詠まれた植物を展示する「平安の苑」の管理業務を継続して受託した。

### コ さすてな京都(南部クリーンセンター第二工場)千両松の植樹・保全

## (8) 広報・出版

### ア 広報誌・パンフレット等の発行

#### a 『京のみどり』(季刊)の発行

緑に親しみ歩いていただくためのマップ、緑を守り育てる地域・団体の取組を伝える特集を掲載。優れた日本庭園の見方やグリーンインフラ・雨庭の事例を紹介するシリーズ、園芸相談、当協会事業、京都市の公園緑地施策等の情報を紹介した。

・各号の特集の概要・テーマ抜粋

第107号(夏号) 7月発行	特集「京都一周トレイルを知る、歩く」／雨庭連載「世界銀行が京都で都市開発実務者向け対話型研修 ～気候変動に強靱な「自然を基盤とした解決策」を考える」
第108号(秋号) 10月発行	特集「京の街に広がるフジバカマの輪」／雨庭連載「コンクリート舗装から生物多様性に配慮した雨庭へ 一日新電機・日本アイ・ティ・エフ久世工場」
第109号(冬号) 12月発行	特集「放置竹林を資源の循環にもどそう 新たな利用とネットワークで名産地の復活へ」／雨庭連載「香川大学キャンパスに人々を迎える雨庭 一気候変動への対応を四国から」
第110号(春号) 3月発行	特集「名勝円山公園 歴史と自然を後世へ」【東山区】／雨庭連載「進化する京都市の雨庭 一令和4年度オープンの大石橋、東山仁王門、お東さん広場」

・部数 各号7,000部(配布場所・配布先:市政案内所、区役所・支所、市立図書館、公園愛護協力会、全国の緑化団体等)

### イ ホームページによる発信

情報提供のため、メイン(法人、梅小路公園、子どもの楽園)のホームページ(<http://www.kyoto-ga.jp/>)を運営している。トップのアクセス件数 Visits(※)は851,828件(前年度比11.4%減)と、140万件以上を記録した平成30(2018)年以降減り続けている。このほか円山公園の観光案内、深草墓園の利用案内のサイトを運営した。

※Visits(訪問者数) 30分以内の同一IPをカウントしない実質のアクセス数の指標。

## (9) 調査・情報収集

施設管理や情報発信の基礎資料とするため、モニタリング等の調査・情報収集を行った。(7)エの3者協定のほか、前年度に京都府立大学大学院生命環境研究科、京都大学大学院農学研究科森林科学専攻、京都先端科学大学との間で、包括連携協定を結んでおり、これら研究教育機関との連携協力も行った。

### ア 梅小路公園いのちの森モニタリング調査

京都ビオトープ研究会のいのちの森モニタリング活動への協力を行い、開園から27年を迎えた森の変遷を記録した。生き物を紹介するパネルを掲示し、来園者にモニタリング調査の様子も紹介している。

### イ 梅小路公園ウメ・サクラ毎木調査

寄附木を含め、多様な品種があるウメ・サクラの毎木調査を実施し、梅林付近の見どころマップを制作するなど、緑の情報発信の基礎的資料としている。

## ウ グリーンインフラ・雨庭の調査研究

グリーンインフラ（GI）や雨庭の調査研究と普及を目指す「京都雨庭研究会」を事務局として運営し、情報収集や企業等の相談に応じた。

- ・世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）・東京防災ハブによる「都市と気候変動」をテーマとする研修への協力（3月13日） 途上国都市開発実務者等約50人が参加する京都での研修で、4年度に引き続き、森本理事長が雨庭等グリーンインフラに関する講演、梅小路公園をテーマとする都市デザイン演習の講評などを行った。

## I-2(公2)京都の庭園の保安全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与する事業

決算額 27,310千円（予算額 23,715千円）

京都の庭園の保安全管理、庭園文化・技術の継承及び発展に寄与することを目的に、庭園の保安全管理業務、庭園講座等への活用及び優れた庭園に関する情報発信等を実施。

### ア 梅小路公園「朱雀の庭」の良好な維持管理と運営

京都が長年培ってきた造園技術を用い、伝統と創生が調和した「朱雀の庭」について、管理保全指針に基づく景観づくりに努めるとともに、活用策としてイベント等を行った。

#### ア 紅葉まつり

例年好評の「朱雀の庭」ライトアップを自主事業として実施した。電気代等高騰のため料金を400円から600円に引き上げた影響で入場者数は41%減となった。新たに環境対策を進め、LED照明、太陽光発電・蓄電による電源を一部に使用し、発電機による騒音や排気ガスを抑制した。

- ・期間 11月10日～11月26日（15日間） 入場者数 3,920人  
（前年度入園者数 6,679人）
- ・電源協力（公財）京都市環境保全活動推進協会、Eco Flow Technology Japan(株)

### イ 庭園情報の収集・発信

京都の優れた庭園の情報を収集し、広報誌「京のみどり」、ホームページにおいて、庭園を実際に訪れていただくための発信を行った。

### ウ 庭園文化講座等

日本庭園に関連する「緑の文化」、伝統的技術について理解を深めていただくことを目的に、庭園デザインや関連分野の建築・茶道等の様々な視点から庭園文化を学ぶ講座を実施した。

#### ア 京の庭講座

- ・講師 武田純 ・受講者 のべ63人
- ・各回の実施内容

第1回	1月26日	(座学) 庭園の歴史
第2回	2月9日	(座学) 庭園のデザイン
第3回	2月23日	(座学) 庭園の見方

#### **b 庭園ガイド活動**

朱雀の庭・いのちの森の利用促進のため、個人向けガイド活動を3月から原則毎週末に実施した。

- ・実績 団体向け 1回 案内人数 60人  
個人向け (3月に6回開催) 案内人数のべ 40人

## **II 公園収益事業**

決算額 152,402 千円 (予算額 157,459 千円)

梅小路公園、宝が池公園子どもの楽園指定管理業務の中での収益事業、国立京都迎賓館庭園保全管理業務、深草墓園指定管理業務の受託等を行い、その収益を公益目的事業及び法人業務の財源とした。

このうち指定管理事業では、公園収益事業収入はコロナ前の水準まで回復した。また、自動販売機手数料等収益は夏季の異常高温の影響で伸び悩んだ。

#### **ア 自動販売機飲料販売事業**

飲料自動販売機の収益は前年度並みの収益となった。円山公園の自動販売機収益は京都市に80%還元している。

#### **イ 梅小路公園収益事業(貸室、遊戯用電車等)**

貸室の収益は、前年度と比べて増収となった。遊戯用電車の運行業務は、運行システムの不調により前年度に引き続き、3か月の運休となった。

#### **ウ 宝が池公園子どもの楽園駐車場運営事業**

夏季の異常高温のため、駐車台数が前年度に比べ減少したが、料金体系の改定(条例改正)により、収益の減少は避けられた。

#### **エ 国立京都迎賓館庭園維持管理事業**

京都が長年培ってきた造園技術の集大成ともいえる京都迎賓館庭園について、内閣府からの受託事業として、造園に携わった造園業者とともに、管理保全指針に基づき、計画的な景観づくりに努めた。

#### **オ 深草墓園指定管理業務**

安全確保のための施設改善、イノシシ対策、参拝者が京都の季節の花に親しみながら散策するための和の花散策コーナーの充実などに努めた。秋・春の式典は、混雑対策のため、全遺族の約3分の1に人数を制限して開催することとなったが、参列できないご遺族のため、初めて式典の様子をライブ配信した。

## **III 法人業務**

決算額 2,961 千円 (予算額 3,472 千円)

公益認定関連の法令及び内外の情勢に対応し、法人業務を行った。

### (1) 理事会・評議員会

理事会を2回、評議員会を1回開催した。コロナ対策のため、いずれも会場（協会本部事務所）とオンラインを併用して行った。

#### 【理事会】

回	開催日	主要議決事項
第26回理事会 (オンライン併用)	令和5年 5月26日	令和4年度事業報告及び収支決算の件 定時評議員会の招集の件
第27回理事会 (オンライン併用)	令和5年 3月25日	令和6年度事業計画及び収支予算の件 令和6年度資金運用の執行方針及び計画の件

#### 【評議員会】

回	開催日	主要議決事項
第14回評議員会 (オンライン併用)	令和5年 6月22日	令和4年度収支決算の件 理事選任の件、評議員選任の件

### (2) KES環境改善活動等の環境対策の実施

KES（環境マネジメントシステム・スタンダード）の環境改善活動は、認証再取得後、5年度から新たに3期目として、引き続き4事務所で省資源、地域清掃及び希少植物保全活動等に取り組んだ。

### (3) 事業推進積立金への積戻し

令和5年度当初に、新たな円山公園指定管理業務などの円滑な推進のため、事業推進積立金15,000千円（1号財産）を取り崩し流動資産に変更した。3か年で5,000千円ずつ積み戻す計画であり、5年度は5,000千円を積み戻した。

## 事業報告の附属明細書について

令和 5 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書の内容である「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、作成しない。